

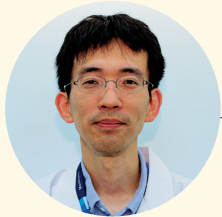


茨城県地域臨床 教育センターだより

2021
Vol.40

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 令和3年11月1日発行(第40号)

美崎昌子先生ご講演の報告 + α



循環器内科 准教授

吉田 健太郎

専門領域 ■ 不整脈領域
カテーテルアブレーション治療
心房細動

2021年8月19日に第18回茨城県地域臨床教育センター講演会が開催されました。2012年から2017年まで当院循環器内科に勤務され、その後、郷里の静岡県に開業されて4年が経つ美崎昌子先生に地域医療に関するリモート講演会「私の中間報告～地域医療：開業医の立場から」をお願いさせていただきました。

美崎先生は1999年筑波大学医学群のご卒業で、私と同期です。つくばエクスプレス開業前の「陸の孤島」と呼ばれた筑波大学での研修時代から苦楽を共にしてきた同志であり、尊敬する医師でもあります。そのお名前の通り（昌は太陽が二つ）いつも明るく元気で笑顔に溢れるお人柄は、患者さんからはもちろん、広く

同僚、Co-medicalからも慕われていて、参加者51名にも及ぶ盛会となりました。

ご講演の内容は多岐に渡りました。1. 心不全難民を地域で救うこと：「心不全パンデミック」という言葉が世に登場してから久しいわけですが、これからの時代は重症の心不全患者をも開業医が受け皿にならない、そのために今からできることは何か？がん診療と対比しながら、心不全手帳の活用法をご紹介いただきながら、診療を超えて社会問題、死生観にも及ぶ深いお話でした。2. コロナ禍に思うこと：様々な取り組みをご紹介いただきましたが、「医師としてパンデミックの経験は本望である」「世界が賛辞を送ったのは先進医療ではなく献身であり、医師より看護師であった」という言葉がとても胸に響きました。3. セルフケア～当クリニックでの取り組み～：生活改善のための多くの啓蒙・教育活動をご紹介いただきました。体操教室、ヨガ教室、お母さん教室。患者意識を育むコツと思いますが、いずれも「患者参加型」であることがあかりクリニックらしさに溢れていました。子育てと医療の共通点はとても共感できました。



開催状況

4. 総合病院勤務の皆様提案したいこと：入院生活を少しでも日常に近づけることの大切さ、ベンゾジアゼピン系睡眠薬のデメリット、総合病院との連携の重要性など。会場からも共感の言葉が多く聞かれました。

美崎先生の人並外れた向上心、感性、体力、柔軟性、そして創造力(+芸術性)のなせる業でしょう。誰にでも真似できることではありませんが、この「美崎スタイル」が全国に広がれば、高齢化社会と心不全パネミックにおいても心不全患者が目いっぱい生き抜ける社会が実現できると確信しました。

話は逸れてしまいますが、最近私が思うこと、私の感じていることにも触れさせていただきます。学生のころ、社会人を経験してから医学部に入り直した先輩から教えていただいた印象的な言葉があります。「医者という仕事の大きな特徴は、働く場が多様で、それを自らが選択できる場所である」。確かに医者の仕事は、WHOで働く、厚生省医官として行政に関わる、企業の研究員、産業医、保健所、基礎研究学者、臨床医(同じ脳を診るにしても脳神経外科と精神科では大きく異なります)など、多種多様です。一定の条件はありますが、医者は自分の進む道(専門)を自分で選ぶことができる恵まれた職業と言えるのかもしれませんが、しかし、それだけに己を良く知っていなければならない、己が一番活躍できる世界、臨床医の場合は患者さんのために一番お役に立てる分野を自分で見極めなければならないということです。努力では乗り越えられない個々の適性ってあるのかもしれませんが、自分の適性を見極める、これは意外と難しいことなのかもしれません(カラオケが大好きな人の歌が上手とは限らない)。その一方で、解剖学者であり作家でもある養老孟司先生の「超バカの壁」の中に出てくる文章は、私にとって衝撃的でした。「仕事というのは、社

会に空いた穴です。道に穴が空いていた。そのまま放っておくとみんなが転んで困るから、そこを埋めてみる。ともかく目の前の穴を埋める。それが仕事というものであって、自分に合った穴が空いているはずだなんて、ふざけたことを考えるんじゃない」。私にとって今の自分の目の前にある大きな穴は地域医療、総合診療、医学生・研修医教育、さらに新型コロナ診療です。美崎先生のお仕事のように総合力が求められます。そして自分がこれまでに最も力を注いだ穴(仕事)は心房細動の臨床研究です。しかし、最近その穴は意外と小さくて、そのまま放っておいても誰も転びそうにない。。ということに気付いてしまいました。結論は、出ていません。

話が逸れましたが言いたいことは、美崎先生の目の前には、大きな穴が大きく口を開けていて(社会から強く望まれている大切な仕事)、美崎先生はその穴を埋めるのにぴったりの適性を持ち合わせていて、いま正にその穴を確実に埋めていらっしゃるということですよ。これを「天職に出会う」というのかもしれませんが。そんな美崎先生をみて、うらやましく思い、勇気づけられた講演会でありました。ご健康と益々のご活躍をお祈りしております。



美崎昌子先生と「あかりクリニック」の皆さま